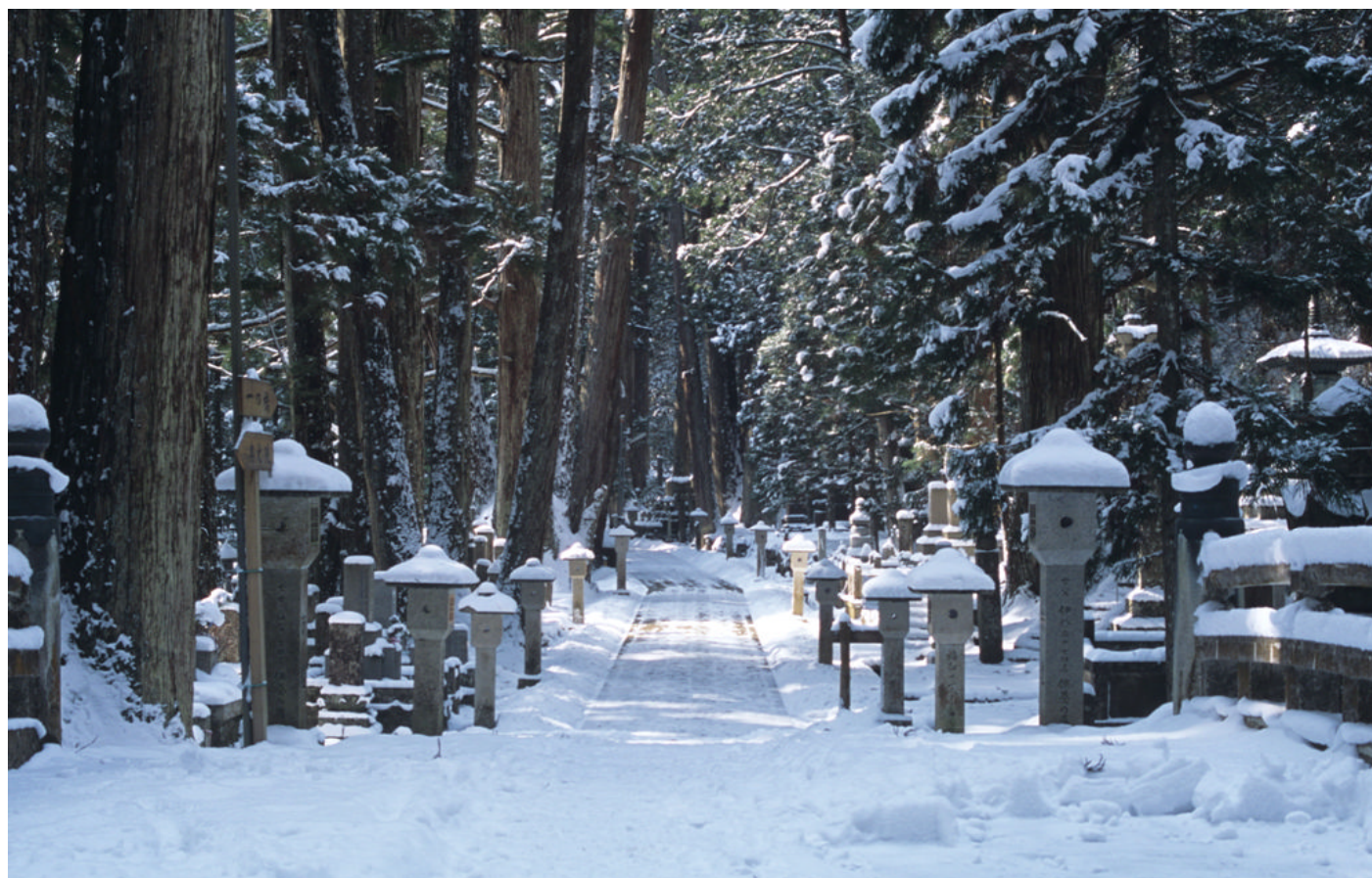


和歌山だよいい

平成25年1月号



高野山奥の院（高野町）

CONTENTS

1. 知事メッセージ…………… P1
2. 和歌山県政トピックス… P2～P9
3. お知らせ…………… P10
4. ふるさと歳時記…………… P11



今年もよろしく
お願いいたします

「寝ても 覚めても」

「寝ても 覚めても」という言葉があります。いつも何かに熱中していることですが、ふと自分もそうだなあと思いました。私は、職業柄、県を良くする方策をいつも考えていますが、いいことを思いつくのは県庁の執務室に限りません。会議やシンポジウムに出ていて、その時の流れから思いつくこともあります。要望に来られた方々と議論しているうちにそういえばと思うこともありますし、朝めざまし時計で起きてから今日の予定などを考えている時に浮かぶことも、移動中の車中でも、お風呂の中でも色々考えていると、そうだと急に思いつくこともあるのです。しかし、こういう風に思いつくためには、それこそ寝ても覚めても、いつも県をどうしたらもっと良くできるかということを思い続けていないといけません。どうでもいいやと思ったり、勤務時間とか自分の出番が終わったら後は知るかと思ったりしていると絶対に思いつきません。

しかし、考えてみると、熱心に仕事をしている県民の方々は皆こうして寝ても覚めても努力していらっしゃるのではないかと思います。みかんを作っておられる農家の方は、いつもみかんの生育のことが頭にあり、日照りで乾きすぎていないかとか、雨を吸いすぎて水っぽくなりはしないかなど心を砕いておられると思います。会社を経営しておられる方は、寝ても覚めても会社のことが心配で、子育て真っ盛りの親御さんは、お子さんがちゃんと食事をとってくれるか病気にならないだろうかと、寝ても覚めても気を許す暇はないでしょう。と思えば、我々県政を預かっている知事や県庁職員は、寝ても覚めても県政のことを考えるのが当たり前だろうと思います。

ただし、いいことを思いついてもすぐ実行しないと忘れてしまうことがあります。そのため夜遅くは除いて、私は思いついた事はすぐ携帯で職員に指示をしたり、打診をしたりしています。また忘れぬようにメモ帳をいつも持ち歩いて書きとめています。こう言う仕事ばっかりのようですが、私も色々仕事以外のことも楽しませていただいています。しかし、その中でもどこかで寝ても覚めても県政のことを考えていようと思います。



新春インタビューにて

* 最近の県政の動きや県内の話題などをピックアップしてお届けします。

●「陸奥宗光シンポジウム」を開催しました。

・12月1日、東京都千代田区の明治大学アカデミーホールにおいて「陸奥宗光シンポジウム～和歌山県（紀州藩）が生んだカミソリ大臣、陸奥宗光と日本外交～」が開催されました。

・シンポジウム冒頭の主催者挨拶にて、仁坂知事は、和歌山県立博物館所蔵の紀伊徳川洋式演武之図に触れつつ、紀州藩には二万人にも及ぶ洋式軍隊があったことや何故、封建的な薩長が明治維新时期を主導したのか、和歌山

で陸奥宗光がどんなふうに成長したのか等、明治維新时期には謎が多く、その謎解きが本シンポジウムを企画した動機であるとの挨拶を行いました。

・第1部ではNPO法人岡崎研究所の岡崎久彦理事長が基調講演を行いました。岡崎氏は、祖父岡崎邦輔氏が陸奥の従兄弟にあたり、自らも外交官として、長らく外交の最前線で活躍されてきた経歴を持つなど、陸奥を語るにはこれ以上ふさわしい方はないと言われる方で、今回のシンポジウム開催にあたって、大変なご協力とご助言をいただきました。

・岡崎氏は、陸奥の幼少期からの人生を振り返り、15歳で江戸に出て、坂本龍馬等に出会った話など興味深い話を次々と披露されましたが、時間内にすべてが語り尽くせないほどで、改めて、時代を駆け抜けた陸奥のすごさが伝わる講演となりました。

・第2部のシンポジウムでは、岡崎氏のほか、北岡伸一政策大学院大学教授、御厨貴東京大学名誉教授、元NHKアナウンサーの松平定知京都造形大学教授、外務省の北野充軍縮不拡散・科学部長、そして仁坂知事も加わり、それぞれの視点から、陸奥宗光の生き様とその歴史的背景が熱く語られました。

・北岡氏と御厨氏は政治学者としての見地から、陸奥の外交手腕と明治期の国内・国際情勢について鋭い分析を行い、松平氏は、聴衆を引き込む語り口調で社交界の華と謳われた陸奥の夫人、亮子について語りました。

・また、北野氏は、外交の最前線にいる現役の外交官としての立場から、陸奥の仕事力について語り、仁坂知事は、陸奥を輩出した、明治維新时期の紀州藩について話をしました。

・会場は満員の聴衆で埋め尽くされ、近代日本の礎を築いた偉人の人生に想いを馳せるとともに、外交をはじめ様々な難題に直面する日本の現在を見つめ直す有意義な時間となりました。

・このシンポジウムの動画は、後日、ホームページにも掲載を予定しています。詳細が決まりましたら、また、誌面でもご案内いたします。

・なお、「このシンポジウムを陸奥のふるさと和歌山でも」との声が寄せられ、2月16日に和歌山市のホテルアバローム紀の国にて開催されることが決定しました。岡崎氏による基調講演と仁坂知事と岡崎氏の対談が予定されていますので、ふるってご参加下さい。

・参加申込みについては、下記のホームページをご覧ください。

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/022100/mutsu/mutsu.wakayama.html>



●「那智の田楽」が ユネスコ無形文化遺産に登録

・12月6日、パリで開催されたユネスコ無形文化遺産保護条約政府間委員会で、「那智の田楽」の無形文化遺産への登録が決定されました。日本国内の無形文化遺産登録は21件目、和歌山県内では初めてとなります。

・11月、政府間委員会の補助機関による事前審査では、文化的意義等の情報が不十分と指摘され、登録が先送りになる可能性が高い「情報照会」との勧告が出されました。しかし、ユネスコ日本政府代表部等のご尽力もあり、委員会では各国から説明は十分なされているとの意見が相次ぎ、事前審査の勧告が覆り、登録実現となりました。

・約600年の歴史を持つ「那智の田楽」は、国の重要無形民俗文化財で、毎年7月14日に開催される熊野那智大社の例大祭（那智の火祭り）で奉納されています。

・「那智の田楽」がユネスコ無形文化遺産に登録決定されたことは、昨年の台風12号により多大な被害を受けた熊野那智大社をはじめ那智勝浦町の方々に大いに勇気と希望を与えることでしょう。今回の決定を復興のシンボルとして、今後も、地域の振興を図って行きたいと思います。



那智の田楽

毎年7月14日に熊野那智大社で行われる那智の火祭で奉納される芸能で、扇神輿の出御に先立って大和舞・田楽舞・田植舞が奉納されます。伝承では応永年間（1394～1428）京都の田楽法師が伝えたものとされています。笛の音に合わせ、ピンザサラや締太鼓などの楽器を鳴らしながら陣形を替えて踊るのが特徴で、芸能次第としては乱声、鋸齒、八拍子など20余種の古風な演技法が伝えられています。

※ユネスコの無形文化遺産とは

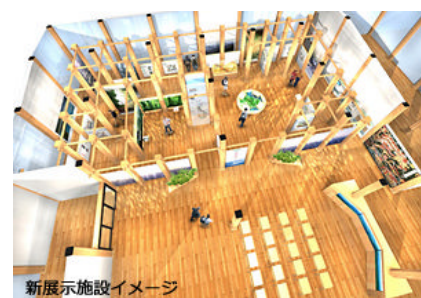
平成15年にユネスコ総会において採択された「ユネスコ無形文化遺産の保護に関する条約（無形文化遺産保護条約）」に基づいた「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表（代表一覧表）」に記載された無形の文化遺産を指し、口承による伝統及び表現、社会的習慣、儀式及び祭礼行事、伝統工芸技術など、基本的に形をもたない無形の文化財が対象となります。

●世界遺産熊野本宮館がリニューアルオープン

・一昨年9月の紀伊半島大水害により休館していた田辺市の「世界遺産熊野本宮館」の復旧工事が完了し、1月1日にリニューアルオープンしました。

・館内に設置していた和歌山県世界遺産センター展示施設も、全体的なイメージはそのままに、新しいコンセプトによる展示が加わりました。追加されたのは①「紀伊山地の霊場と参詣道」の新しい魅力として地域の民話や伝承を紹介する「人とくらし」コーナー、②世界で唯一「川の参詣道」として登録されている点に着目した「川の参詣道」コーナーで、これに加えて、60インチ×3面マルチ画面も設置され、世界遺産と和歌山県の魅力を紹介する臨場感溢れる映像が流される予定です。（※映像については3月末完成予定）

・より魅力ある施設にパワーアップして生まれ変わった「世界遺産熊野本宮館」に、ぜひ、お越し下さい。



● 東海・東南海・南海三連動地震を想定した津波災害対応実践訓練を実施

・12月2日、マグニチュード8.7の地震が発生し、津波等により、県全域に多大な被害が出たという想定で、訓練を実施しました。

・この訓練は、災害対応の中心となる県の災害対策本部を県庁南別館に設置し、警察、自衛隊など関係機関の集結する広域防災拠点の1つであるコスモパーク加太、被災地として設定した海南市下津町塩津地区の3ヶ所において、同時並行でより実践に即した内容の訓練を実施し、関係機関と住民併せて約730名が参加しました。

・塩津地区では、防災無線からのサイレンで住民の方々が、高台の寺に避難。その後、より安全な小学校に移動し、避難所の開設・運営訓練が行われました。

また、被災地から県職員がタブレット端末に避難所の様々な情報を入力して災害対策本部等に送信する「移動県庁」を使つての情報収集訓練も今回初めて実施しました。

・コスモパーク加太では、広域防災拠点として、ベースキャンプや移動無線基地局が設置されたほか、陸上自衛隊のヘリコプターで警察部隊を被災地へ搬送する連携訓練が行われました。

・県庁南別館の災害対策本部では、仁坂知事をはじめ幹部職員等が災害対策本部会議訓練を実践的に実施しました。

・今回の訓練は、これまでの劇場型訓練から新機材を用いたり、知事や県職員、関係機関がシナリオを使わずに、より実践的な形で連携した内容へと見直したもので、今後、訓練で明らかになった課題を分析し、大規模災害に備えます。



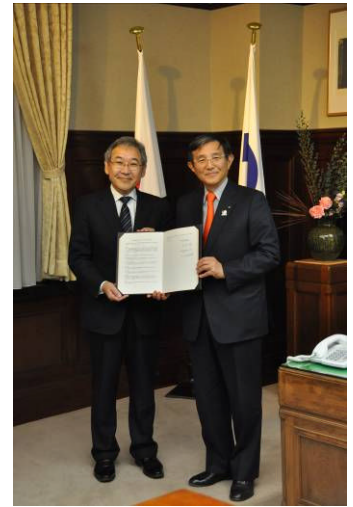
● 国土地理院と「地理空間情報の活用促進のための協力に関する協定」を締結

・12月4日、知事室において、和歌山県と国土交通省国土地理院の「地理空間情報の活用促進のための協力に関する協定」の締結式が行われました。

・この協定は、双方が保有する地理空間情報（地図、標高データ、空中写真やそれに付随するデータ）の相互活用等を行うことにより、両者の連携・協力を強化し、県民の方々の利便性の向上や安全・安心な地域社会づくりに寄与することを目的としています。

・具体的には、国土地理院が保有する詳細な地理空間情報を活用することにより、道路規制などの行政事務を効率化ができるほか、災害時には、被災地の空中写真や地形図などの情報を受けることにより被災状況の正確な把握や応急復旧工事的確な実施が可能となります。

・仁坂知事は、「国土地理院と協力関係を築けるのは大変ありがたい。特に災害時はどこがどうなっているか地上からは確認できないので、是非、色々教えていただきたい」と述べ、協定の締結を喜びました。



※協定の内容

- 地理空間情報等の提供
 - ・和歌山県は、国土地理院が保有する地理空間情報の提供を受ける
 - ・国土地理院は、和歌山県から県道、公共施設等の新設・移転等情報等の提供を受ける。
- 災害対応等における協力
 - ・和歌山県は、災害時に、国土地理院が作成した被災地域の空中写真・地形図等の、被災状況把握、応急復旧工事等に資する地理空間情報の迅速な提供を受ける。
- 技術支援
 - ・和歌山県は、国土地理院によるソフトウェアの提供、操作指導等を受ける。

● 「地域セミナーin 和歌山」が開催されました。

・12月12日、和歌山市のアバローム紀の国において、「地域セミナーin 和歌山～地域資源を活かした健康関連産業振興による新事業創出～」が開催されました。

・和歌山県は文部科学省、経済産業省、農林水産省が平成23年度に選定した「地域イノベーション戦略推進地域」のひとつで、食の機能性に着目した健康産業の創出や医工連携によるものづくりイノベーションの推進に取り組んでいます。今回のセミナーは本県をはじめ、全国各地で取り組まれている地域資源を活かした健康産業創出について、その意義と効果、課題を共有化することを目的にしています。

・セミナーには、全国の産業支援機関や自治体、大学などの関係者約100名が参加。

・仁坂知事は「和歌山は果樹王国。それを受ける食品加工等のメーカーも多数あり、その方々を結集し、科学技術の力を用いて産業振興を進めています。そのような中、今回のようなセミナーを開催していただくのは大変ありがたい」と挨拶。

・第一部では、主催者である全国イノベーション推進機関ネットワークの会長で株式会社堀場製作所の堀場雅夫最高顧問による、「地域のアイデンティティを活かそう」と題した基調講演のほか、各地の事例報告などが行われました。続く第二部では、参加者によるグループワークが行われ、全体で5つのグループに分かれて、それぞれに活発な議論がなされました。

●「第6回きのくにロボットフェスティバル2012」を開催！！

・12月16日、御坊市立体育館において「第6回きのくにロボットフェスティバル2012」が開催されました。

・今回の大会から「小中学生ロボット選手権」部門の参加対象を全国に広げ、「全日本小中学生ロボット選手権」としました。

・各ブロック予選会は、近畿地区はもとより、三重県、福井県、岐阜県、今年から徳島県で開催するとともに、前日には全国一般予選会を行いました。各予選会の参加チームも年々増え、今回、小中学生合わせて554チームとなりました。

・本大会は、小中高校生がロボットコンテストに参加することや、最先端ロボットを体験することで、科学技術への関心を高め、将来の日本の「ものづくり」を支える人材を育成することを目的としています。

・会場には、出場各校からの多くの応援団や観客が訪れ、各予選を勝ち抜いた小中学生が操作する自慢のロボットの熱戦に声援を送っていました。また「きのくに高校生ロボットコンテスト」では、県内の高校生による競技が行われ、レベルの高いロボット同士の戦いに注目が集まりました。

・競技の合間には、ホンダ「ASIMO」のステージや「ROBO-ONE&ロボットゆうえんち」のステージ、高専ロボコンのパフォーマンスを開催。多くの来場者は、ロボットが繰り広げるパフォーマンスに夢中になっていました。



●第65回全国高校バレーボール高等学校選手権大会出場校壮行式開催！

・12月21日、「全国高校バレーボール高等学校選手権大会」にアベック出場する、開智高校（男子代表は18年連続18回目、女子代表は3年ぶりで回目）の健闘を祈念するため壮行式を開催しました。

下副知事は、「日頃の練習の成果を存分に発揮して、頑張ってください」と激励。

・選手を代表して、男女それぞれのキャプテンが大会に向けて、力強く決意を述べました。

・大会は1月5日から、さいたまスーパーアリーナ等（埼玉県）において開催され、開智高校はともに、岩手県代表の高校とそれぞれ初戦を戦いました。女子は惜しくも敗退しましたが、男子は二回戦も勝ち進み、三回戦に進出。しかし、長野県の長野日本大学高校にセットカウント2-1で敗れ、ベスト8進出はなりませんでした。



●紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会オフィシャルスポンサーに2社決定

・この度、紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会の企業協賛制度におけるオフィシャルスポンサーとして、中野BC株式会社ときのくに信用金庫の2社が決定しました。

・12月10日、知事室において、両社への感謝状贈呈式が行われました。

・贈呈式では、中野BC株式会社の中野 幸生代表取締役及びきのくに信用金庫の香山正人理事長から、仁坂知事へ協賛金ボード（目録）が手渡されました。

・知事からは感謝状、マスコット「きいちゃん」のぬいぐるみ及び国体・大会イメージソング「明日へと」のCDをお渡ししました。

・2社からいただきました協賛金は、紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会の広報活動等に活用させていただきます。



●小久保選手からきいちゃん募金へ寄付をいただきました。

・昨シーズンで現役を引退したプロ野球元福岡ソフトバンクホークスの小久保裕紀選手から「きいちゃん募金」に寄附をいただき、12月14日に知事室において、感謝状贈呈式を行いました。

・当日は、小久保選手の母、利子さんと後援会の岩橋延直会長が代理で出席。

・仁坂知事から、感謝状とともに、マスコット「きいちゃん」のぬいぐるみ及び国体・大会イメージソング「明日へと」のCDをお渡ししました。

・いただきました寄附金は両大会のボランティア活動や県民運動などの大会運営経費に活用させていただきます。



●平成24年12月議会で可決された主な条例

○和歌山県薬物の濫用防止に関する条例

・薬物の濫用による被害が深刻化している状況を踏まえ、県民の健康を守り、県民が安全にかつ安心して暮らすことができる健全な社会の実現を図るために制定。

・11月号でもお知らせしましたが、東京都をはじめ大阪府や愛知県でも独自に脱法ハーブを調べて禁止するという条例を既に制定しています。しかし、これでは有害性が確認されるまで、規制ができないため、和歌山県ではまったく新しい対策を考え、条例化しました。興奮、幻覚など精神作用等を及ぼすおそれがあり、本来の用途に反して身体に使用されるおそれのある製品を「知事監視製品」に指定し、業者にはその使用説明書を作って購入者に交付すること、購入者にはその用法を守るという誓約書の提出を義務づけます。このような本県独自の規制により、県民が脱法ハーブに汚染されることを防ぎ、薬物の濫用から県民の健康を守り、安全で安心して暮らすことができる社会の実現を図っていきます。

● 2012年を振り返って

和歌山ビッグウェーブが完成

3月4日、「武道・体育センター和歌山ビッグウェーブ」の竣工式典が行われました。鉄筋コンクリート3階建ての内部には、メインアリーナ、サブアリーナ、武道場等が備えられ、紀の国わかやま国体では柔道会場として使用される予定です。

南海電鉄和歌山大学前駅開業

4月1日、南海電鉄本線孝子駅～紀ノ川駅間に「和歌山大学前駅」が開業しました。新駅は、和歌山大学と新興住宅地「ふじと台」の最寄り駅となり、平日で上り下り合わせて136本の電車が停車します。

6月には、駅ビルエスタシオンが開業し、また平成27年にはイオンモール和歌山の進出も予定されており、地域の玄関口として発展が期待されています



京奈和自動車道紀北東道路 高野口IC～紀北かつらぎIC間が開通

4月22日、京奈和自動車道紀北東道路の高野口ICからかつらぎIC間4.0Kmが完成し、開通式典が開催されました。

和歌山県内の京奈和自動車道は、現在、橋本からまでかつらぎ間Kmが開通。残りの区間については、平成25年度に打田ICまで、平成27年度には阪和自動車と和歌山ジャンクションまでの開通を目指して、工事が進められています。



「わかやま森林と樹木の日」記念行事を開催

5月20日、田辺市の新庄総合公園にて「わかやま森林と樹木の日」記念行事が開催されました。「わかやま森林と樹木の日」は一昨年の5月に開催された全国植樹祭の精神を後世に伝えるために制定した「和歌山の森林及び樹木を守り育てる条例」の中で、定められているもので、式典では天皇陛下が詠まれた御製をお示しくださった記念碑の除幕や「和歌山県緑化功労賞」の表彰が行われました。

紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会正式決定

7月11日、平成27年の第70回国民体育大会（愛称：紀の国わかやま国体）の開催が正式に決定され、仁坂知事に開催決定書が交付されました。また、第15回全国障害者スポーツ大会（愛称：紀の国わかやま大会）についても、開催が決定しました。

この正式決定を受け、9月9日には、和歌山ビッグホールにおいて開催決定記念イベントが行われました。会場にはロンドンオリンピック・パラリンピックのメダリストも駆けつけ、本番に向けて開催機運を盛り上げました。



世界少年野球大会開催

7月24日～30日、紀伊半島大水害で被災した和歌山、奈良、三重の復興を支援するために三県を舞台にして、「第22回世界少年野球大会」が開催されました。

世界15の国と地域の子供たちが参加し、野球の試合や交流行事を通じた互いの親睦を深め、笑顔溢れる大会となりました。

ロンドンオリンピックで和歌山県ゆかりの選手が大活躍

8月にイギリス・ロンドンで開催されたオリンピック・パラリンピックでは、和歌山ゆかりの選手・監督が13名も参加。県内では、パブリックビューイングも行われ、選手達に熱い声援を送りました。

アーチェリーの古川選手が銀メダル、体操男子団体の田中和仁、選手が銀メダル、レスリング湯元進一選手が銅メダル、パラリンピックでは、水泳の中村智太郎選手が銀メダルを獲得するなど、素晴らしい成績を収めました。

9月18日には、「ロンドンオリンピック・パラリンピック出場選手の健闘を讃える会」が和歌山市で開催され、選手達の大活躍に賞賛が贈られました。



津波からの円滑な避難に係る避難路沿いの建築物等の制限に関する条例制定

・地震によって倒壊した建築物等が避難路の通行を妨げることを防止するため、所有者等の責務や避難路沿いの建築物等の制限を定めた「津波からの円滑な避難に係る避難路沿いの建築物等の制限に関する条例」を制定しました。この条例は本年4月1日から施行されます。

星空のまち、青空の街全国大会開催

11月17日～18日、日高川町において「星空のまち、青空の街全国大会」が高円宮妃殿下をお迎えして開催されました。

大会では、大気環境保全の普及啓発などに取り組んで来た個人・団体への表彰や講演会、夜には星空観察会などが行われ、美しい星空、青空を通して、環境意識の高揚が図られました。



和歌山県薬物の濫用防止に関する条例

薬物の濫用による被害が深刻化している状況を踏まえ、県民の健康を守り、県民が安全にかつ安心して暮らすことができる健全な社会の実現を図るため「和歌山県薬物防止条例」を制定しました。この条例は本年4月1日から施行されます。

陸奥宗光シンポジウム開催

12月1日、東京都千代田区の明治大学アカデミーホールにおいて、「陸奥宗光シンポジウム～和歌山県（紀州藩）が生んだカミソリ大臣、陸奥宗光と日本外交～」を開催し、会場は聴衆で満員となりました。この盛況を受けて、ふるさと和歌山でも2月16日に「陸奥宗光シンポジウム」が開催されます。

わかやま観光情報サイト「わかやま〇(まる)旅」に
新ページ「わかやま記紀の旅」オープン！

～古事記・日本書紀からたどる和歌山の旅をご案内～

今年、古事記編纂1300年を迎えたことを契機に西日本を中心にさまざまな催事や取り組みが行われ、また、初心者向けの解説本などが多数出版されるなどした結果、若い世代を中心に「記紀（古事記と日本書紀）」や神話に対する関心が高まっています。

本県にも「記紀」にゆかりの深い場所などが多数所在することから、県、和歌山県観光連盟では、これらを「わかやま記紀の旅」としてわかりやすく取りまとめ、観光情報ホームページ「わかやま観光情報」の「わかやま〇(まる)旅」の新しいテーマとして広く情報発信します。

※取りまとめに際しては、和歌山県神社庁のご協力をいただきました。



ホームページURL わかやま観光情報 > わかやま〇旅 > わかやま記紀の旅
<http://www.wakayama-kanko.or.jp/marutabi/kikinotabi/index.html>

紹介メニュー

◆「記紀から探す」

『古事記』『日本書紀』の物語で、和歌山が舞台となったのは？
 本県に関係する8つの物語を紹介します。

◆「地図から探す」

『記紀』にゆかりの深い場所などを、地図からカンタン検索！

◆「モデルコースから探す」

和歌山の『記紀』の物語を追体験できる7つのモデルコースをご用意！

※掲載場所などについては、随時、追加・更新を行なっていく予定です。



■「わかやま〇(まる)旅」とは？

〇(まる)の中には旅のテーマが入ります。

これは、趣味や嗜好などによって多種多様化する個人の旅行ニーズに対応し、和歌山県が多くの人々から旅行先として選んでもらえるよう、和歌山の魅力が十分発揮できるテーマごとに観光情報を発信するものです。

これまでのラインナップ

「湯の旅」「花旅」「食旅」「てくてく旅」「お宝旅」「鉄旅」「姫旅」「三つ星旅」の8つ

～日高川町～

巳年恵方ジャンジャカ踊り

- ・平成25年は巳年で、恵方は南南東。これにちなんで安珍清姫伝説で知られ、京阪神からの恵方に位置する道成寺では、ジャンジャカ踊りの特別公演が行われます。
- ・このジャンジャカ踊りは通常4月27日に開催される道成寺会式において、執り行われているもので、大蛇が火を噴きながら境内を勇壮に練り歩きます。
- ・期間は1月7日から25日まで、土日祝日を除いて、毎日、午前と午後の2回行われます。



日帰り温泉でほっこり

- ・日高川町には、川辺温泉きさくの湯、中津温泉あやめの湯、美山温泉愛徳荘、美山温泉療養館と京阪神からでも日帰りで楽しめる温泉施設が充実しています。
- ・一昨年の紀伊半島大水害で、大きな被害を受けた施設もありましたが、昨年夏には全て復活。今までどおりのお湯で訪れる人をほっこりとさせてくれます。



アユとアマゴの一夜干し

- ・日高川漁協は、一昨年の紀伊半島大水害で、養殖していたアユ40万尾、アマゴ20万尾が流出するという被害が発生しましたが、関係者の懸命な努力や多くの支援により復旧。昨年1月には加工処理施設「お魚工房日高川」も完成しました。
- ・この工房で生み出される「アユとアマゴの一夜干し」は、昨年8月号でもご紹介したとおり、大手ビールメーカーのキャンペーンの景品にも選ばれた逸品で、鮮度抜群の魚を南高梅酢を使用して仕上げられています。わいわい市場 (<http://shop.wakayamaken.jp/hidagyo/>) からお取り寄せも可能ですので、ぜひ味わってみてください。



日高川ジビエ

- ・日高川町では、平成22年に県内で初めてとなる公的食肉施設「ジビエ工房紀州」が建設され、町内で捕獲されたイノシシやシカが解体処理・加工され、日高川ジビエとして全国に発信しています。
- ・町内の道の駅「SanPin中津」では、冷凍肉のほかシシハムやジビエコロッケなどが販売中。また、3月23日には日高川ふれあいドームにて「第1回日高川ジビエ猪・鹿・鳥料理まつり」が開催されます。



日高川町観光協会ホームページ <http://kanko.hidakagawa.jp/>

～編集後記～

あけましておめでとうございます。

謹んで、皆様方に新春のお慶びを申し上げます。

さて、今月号のトピックスでも「2012年を振り返って」として、和歌山県の昨年の出来事を振り返っておりますが、日本に目を向けて見ますと、2012年を表す漢字に「金」が選ばれたことに象徴されるように、オリンピックに沸き、日本選手の活躍が多くの人々の心に深く刻まれた年となりました。

この紙面でも和歌山ゆかりの選手の活躍をお伝えしましたが、改めて、スポーツが持つ力の大きさ、素晴らしさを感じた1年でありました。

スポーツと言えば、今年、本県では「紀の国わかやま国体」の開催に向けて、準備も本格化してきます。本番まで、あと2年、オリンピックに負けないような感動を全国にお届けしたいと思いますので、どうぞ、ご支援、ご協力をお願いいたします。

また、今年は伊勢神宮の式年遷宮の年にあたり、全国各地から多くの参拝者が訪れますが、この参拝客を熊野にも呼び込もうという取り組みも進められています。

さらに、来年は世界遺産登録10周年、再来年は高野山開創1200年と観光面でも、和歌山が注目を集める年が続きます。国体と併せて、この機会に和歌山を全国に向けて強力にアピールし、和歌山をもっともっと元気していきたいと思います。

暦の上では、1月20日が大寒ということで、ここ和歌山でも今日雪がちらつきましたが、これからが一年で一番寒い時季となります。皆様、どうぞお体にはお気をつけください。

今年も、どうぞ、よろしくお願いいたします。

知事室秘書課長 森田 康友

★「和歌山だより」Web版を和歌山県ホームページにアップしています。Web版ならではの美しい画面を楽しんで頂けますので是非ご覧ください。

和歌山だよりに対するご意見・ご感想をお聞かせ下さい。また、皆様がお持ちの和歌山に関する情報をご提供下さい。今後、皆様のお声を紙面づくりに活かしていきたいと考えています。

(下記のFAX(様式自由)、E-Mail等でお願ひします。)

■FAX 073-422-4032

■E-mail e0001003@pref.wakayama.lg.jp

和歌山県のホームページ

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/>

ふるさと和歌山応援サイト <http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/furusato/>

*個人情報につきましては、「和歌山だより」
の発行以外の目的には、使用いたしません。



2013年(平成25年)1月 NO.57

和歌山県 秘書課

〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通1-1

TEL 073-441-2022